**令和元年度　霧島市自殺対策検討委員会　会議要旨**

|  |  |
| --- | --- |
| 開催日時 | 令和２年１月３０日（木）　19:30～20：45 |
| 開催場所 | 国分シビックセンター公民館　３階　大会議室 |
| 出席委員 | 野田委員、有川委員、山﨑委員、竹田委員、林委員、児玉委員、竹内委員田上委員、鎌田委員、福永委員、岩元委員 |
| 事務局 | 【健康増進課】林課長、中村保健予防グループ長、吉村健康づくり推進グループ長、東郷主査、黒松主任主事【すこやか保健センター】島木所長、重留副所長、久木田主査、前原主任技師 |
| 公開・一部非公開又は非公開の別 | 公開 | 傍聴人数 | ０人 |
| 議事1. 健康きりしま21（第３次）計画【休養・こころの健康づくり分野】の進捗状況と主な取り組みについて
2. 令和２年度事業計画（案）について
3. 霧島市自殺対策計画骨子（案）について

（4） その他 |
| 協議結果等の概要　　　　　委：委員　　事：事務局1. 健康きりしま21（第３次）計画【健康づくり分野】の進捗状況と主な取り組みについて

（２）令和２年度事業計画（案）について　　⇒　事務局が資料に沿って説明。委員からの主な質問は次のとおり。委：ゲートキーパーについて、民生・児童委員を対象に養成しているとのことだが、ゲートキーパーを通じて保健センターなどに相談があるか。事：人間関係のことで悩んで仕事も続かず引きこもっているという親御さんからの相談を民生委員からもらい、訪問したあと、心の健康相談につないだことがある。また保健師も民生・児童委員の定例会に顔を出し、民生・児童委員と顔のみえる関係を築くための努力している。委：自殺死亡者の動機別の割合として、健康問題が一番大きいが、健康問題になるひとつ前の段階で別の理由があるのではないか？事：すこやか保健センターの心の健康相談での相談内容として、１２月末現在で、心の悩みが一番多く、４０％ぐらい、２番目に子育ての悩み、ついで子供の引きこもりの相談、学校でのいじめ問題などが相談として上がっている。委：（心の相談従事者として相談内容の補足）心の健康相談の相談者は母親が多く、子供の相談が多い、相談につながっていない人が重篤であると思われる。相談につながった人を地区担当の保健師や民生・児童委員へつなぐことがある。周りにつなぐことが大事と考えている。住民にも専門家にも。委：自殺の原因は一つではなく、複合的な要因がある。１つでも介入できることはやる、自殺の予防と考えられることは、できるのならば、していかなければならない。委家庭内のポストベーション（残された家族への対応）はしているのか事：課題としてはあるが、市単独ではできない。市町村だけではなく、それ以上の範囲で対応が必要。現状では地域の遺族会につなげるにとどまっているが、今後は県、保健所などと対応できるようにしていきたい。（３）霧島市自殺対策計画骨子（案）について⇒　事務局が資料に沿って説明。委員からの主な質問は次のとおり。委：追加資料のP２の高齢者の自殺について、独居老人ではなく同居の高齢者に自殺の割合が高いことがデータに出ていた。高齢者に対して、独居だけではなく一様に支援を行っていかなければならないと個人的には思う。事：同居高齢者の自殺が多いのは、老々介護で疲れて自殺しているのではないか？事：働いている人も自殺は多いが、仕事別で分けると、農業、自営業で自殺する人より退職や無職等の人の自殺が多い。委：老々介護も一因があると思うが、それだけではないと思う。要介護状態でない世帯もある。また経済的な問題で自殺する高齢者が多いと感じる。委：ここ数年死亡数は変化していないが、死亡した方の地区（エリア）を分析してはどうか。ゲートキーパーを増やすにしてもエリアがわかることで対応策も見えてくるのではないか。また、勤務・経営問題に取り組むにも、自殺者の多い企業、業種などわかっていれば重点的に対応できるのではないか。（４）その他委：自殺を１００％防ぐことはできないが、メンタルの不調を軽減することは大事である。自殺する時は、うつ病ではなくても抑うつ的な状態、メンタルの不調がある。周囲の人がメンタルの不調を気づくことが大切。メンタルの不調の早期発見のためには、教育、労働、高齢者などメカニズムが違うので各分野での啓発が必要。睡眠障害が一番問題だと思う。悩みが深刻でも眠れていればまだ大丈夫だが、眠れていないと本当に危ないと精神科医として実感している。 |
| 会議資料 | 【配布資料】○令和元年度霧島市自殺対策検討委員会会次第○霧島市自殺対策計画骨子（案）○知って得する健康情報！（リーフレット）○眠れていますか？（リーフレット）○霧島市相談窓口関係者向け連携リスト（リーフレット） |